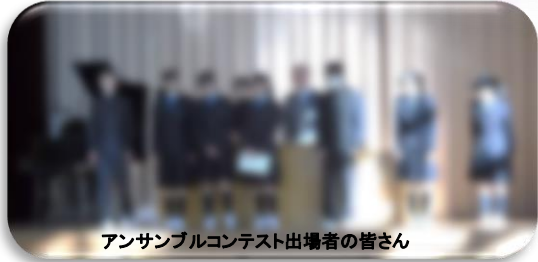


部活動などの活躍

《吹奏楽部》

第55回東京都中学校アンサンブルコンテスト 銀賞

- さん(2-1)
- さん(2-1)
- くん(2-2)
- さん(2-2)
- さん(2-2)
- さん(2-3)
- さん(2-1)
- くん(1-4)



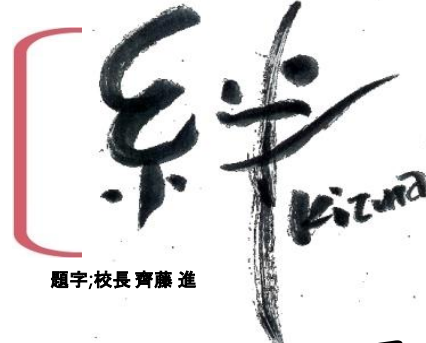
アンサンブルコンテスト出場者の皆さん

新春タコあげ大会 感謝状



佐藤さんと標語が書かれたのぼり

**東京都教育委員会
防災標語コンクール**
南千住二中からは、
○○○○さん(1-1)の作品
『後にせず 小さな備え
今やろう』が選ばれました。
のぼりが作られ、玄関や各階入り口に掲示されています。



題字:校長 齊藤 進



学校だより
平成29年2月
第71号
荒川区立南千住第二中学校



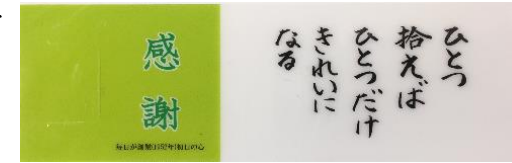
ナンちゃん・ニーくん

ひとつ拾えばひとつだけ きれいになる

校長 齊藤 進

先日、校長室の机の引き出しを整理していたところ、クリアファイルに閉じられたブックマークを目にしました。そこには「ひとつ拾えばひとつだけきれいになる」という言葉が書かれています。久しく目にすることがなかったのですが、私にはとても思い入れのある品物です。それは、今から10年も前の前任校での出来事です。

あるとき富士山登山中に不慮の事故で人が亡くなったというニュースを目にしました。その時はニュースの一つとして受け止めたのですが、後にまさか亡くなられた方が私が勤める学校の保護者とは思いませんでした。未だにその時の衝撃が残っています。その方は企業の経営者で、地域のために率先して従業員と地域のゴミ拾いなど清掃活動を継続的に行っていました。



上野寛永寺で行われた葬儀の返礼に頂いたものがそのブックマークでした。「ひとつ拾えばひとつだけきれいになる」という言葉は、株式会社イエローハット社長で「日本を美しくする会」相談役の鍵山秀三郎氏の著書の題名になっています。鍵山氏は会社創業以来40年以上も毎日トイレや街頭などの清掃を自ら率先して行っていることで知られています。とくにトイレは便器を自らの手で丹念に磨き上げます。以下、氏の言葉を紹介します。

『ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる』私の信念を込めた言葉です。ゴミを拾っていて感じることは、ゴミを捨てる人は捨てる一方。まず、捨てることはしないということです。反対に、捨てる人は無神経に捨てることもしません。この差は年月がたてばたつほど大きな差となって表れてきます。人生はすべてこうしたことの積み重ねですから、ゴミひとつといえども小さなことではありません。第一、足元のゴミひとつ拾えぬほどの人間に何ができませんか。「ともすると人間は、平凡なことはバカにしたり、軽くあしらいがちです。難しく特別なことをしなければ、成果が上がらないように思い込んでいる人が多くいます。そんなことは決してありません。世の中のことは、平凡の積み重ねが非凡を招くようになっています」。



不慮の事故で亡くなられた保護者も鍵山氏に共鳴して毎日清掃活動を行ったことは想像に難くありません。それに比べ、かくいう私は自分の不徳を恥じるばかりです。葬儀のとき目を真っ赤にした生徒に「立派なお父さんだったね」という声を掛けるのが精いっぱいでした。

今、ブックマークは校長室の机に置いています。

南千住マイスターのコーナー

南千住は、江戸時代、多くの大名が暮らした町でもあったわけですが、日光街道と明治通りが交差する三ノ輪橋交差点の表示をよく見てみると、交差点名は「大関横丁」となっています。「相撲に由来する何かがあるのかな」と、思われがちですが、実はそうではありません。この一帯には江戸時代、大名の下屋敷が多くありました。その一つが、黒羽藩の大名・大関氏の下屋敷でした。この屋敷は広大で、現在の三ノ輪橋の交差点から明治通りとJR常磐線が交差するあたりまで、8000坪余りありました。常磐線の高架下には荒川区の史跡を示す案内板もありました。この大関氏の屋敷脇の道を「大関横丁」と呼び、その呼び名が現在に残っているのです。

大関氏の黒羽藩は、現在の栃木県の北方(大田原に隣接する地域)にあり、石高は一万三千石の大名でした。藩政の改革を進めた11代藩主の増業(ますなり)でしたが、養子藩主だったこともあり、重臣からの反発を招き、ここ大関家箕輪下屋敷に隠居することになってしまいました。隠居して弘化2(1845)年3月、65歳で死去するまでの21年間、医学・茶道などの研究に没頭し、功績を遺したと評されています。また、水戸藩主・徳川斉昭は増業を「天下の畏友」の一人として遇していたそうです。その功績をたたえ、昭和39(1964)年、第六瑞光小学校の西側、都電荒川線路沿いに「大関横丁保存会」によって「大関横丁由来の碑」が建てられています。



「大関横丁由来の碑」第六瑞光小学校西側

南千住の史跡・文化財 第10回 『大関横丁(大名屋敷跡群)』

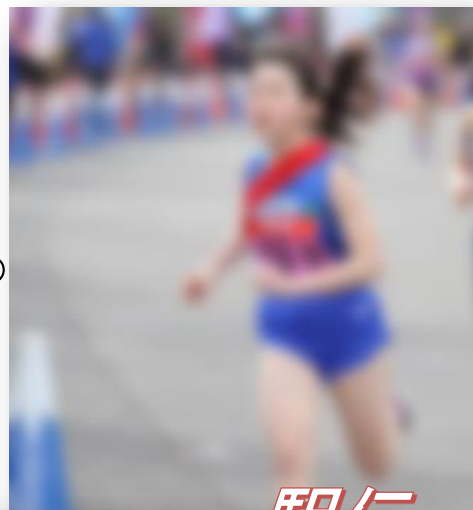
2年生 東京駅伝

2月5日(日)、第8回中学生「東京駅伝大会」が、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園に設けられた特設周回コースで開催されました。この大会は東京都の各市区町村から選ばれた中学2年生によるチームで争われます。南千住二中からは、男子の部に、〇〇〇〇くん(2-1)、〇〇〇〇くん(2-1)、女子の部に、〇〇〇〇さん(2-1)、〇〇〇〇さん(2-2)の4人が荒川区代表選手として出場しました。また、〇〇〇〇くん(2-3)、〇〇〇〇くん(2-1)も練習会に参加し、当日は控えの選手として、選手のサポートと応援をしました。6人は、2月1日(水)の昼の放送を通じて、力強い決意を述べ、全校生徒からたくさんの声援が送られました。

大会は男女それぞれ参加50チーム(23区、26市1町)で行われ、男子は17区、42.195km、女子は16区、30kmのコースでゴールを目指し、タスキをつないで激しい闘いを繰り広げました。

午前10時、号砲とともに女子がスタートしました。渡邊さんは6区1.5kmを、藤井さんは14区2.5kmを懸命に走り続け、順位を落とすことなくタスキをつなぎました。

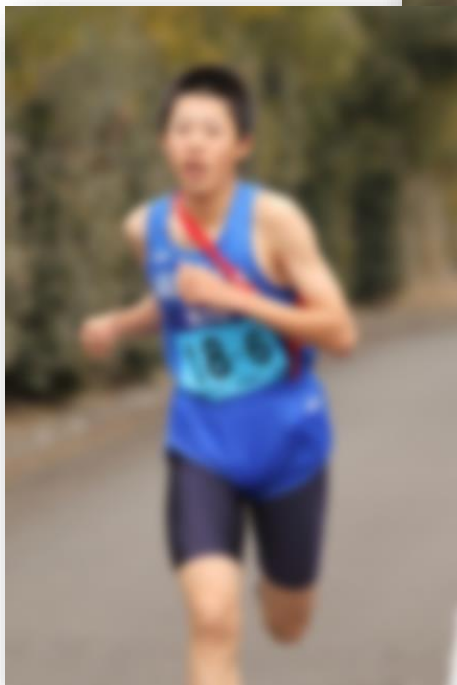
午後1時には男子がスタート。〇〇くんは6区2kmを、続いてタスキを受けとった〇〇くんは、7区2kmを走りました。この日を目指してトレーニングを続けた2人の走りは、練習を追うごとに記録を上げていき、この日は地区の期待と沿道の声援に応える最高の走りで荒川区の記録更新に貢献しました。



駅伝、それは自分との闘い

チームとの絆

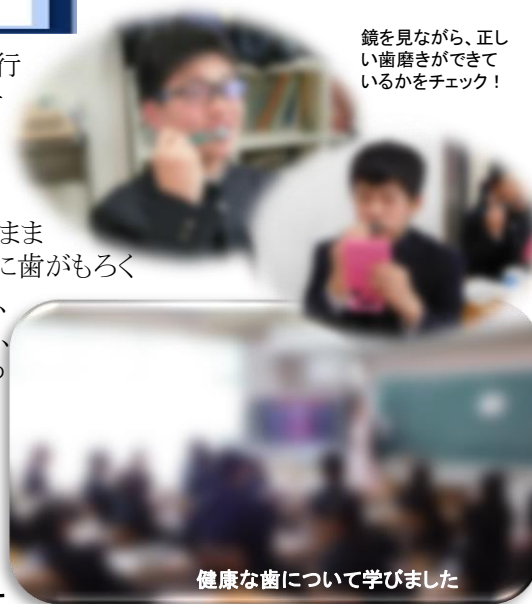
タスキをつなぐ、ただそれだけを胸に全力で駆ける！



1年生 う歯予防教室

1月27日(金)5、6校時に、う歯(虫歯)予防教室が行われました。この日は、歯科医師さん5名とサンスター財団から歯科衛生士さん5名の皆さんが来校。1学年の各クラスに入り、虫歯の原因や予防方法をビデオや楽しいクイズで教えていただきました。虫歯菌は食べ物の残りかすなどの歯垢の中にいて、そのままでは虫歯菌が歯の表面を溶かして、気づかないうちに歯がもろくなり、重症になると全身の病気を引き起こすと聞いて、皆びっくり。恐る恐る鏡で口の中をチェックしてみると、しっかり磨いているつもりでも、まだ汚れが残っていることがわかり、その後行われた正しい歯ブラシの持ち方やブラッシングの仕方、歯間ブラシの使い方の練習に夢中になって取り組みました。また、希望者には、虫歯予防効果の高いフッ化物(フッ素)洗口剤を使って30秒間のうがいを実施しました。

いつまでも自分の歯で食べて必要な栄養を摂ることは健康的な生活を送る上で、とても大切なことです。今回の学びを生かして、正しい歯磨法を毎日の習慣に取り入れていきたいものです。歯科衛生士、歯科医師の皆さん、ありがとうございました。



鏡を見ながら、正しい歯磨きができていないかチェック！

健康な歯について学びました

1年生 和太鼓教室

2月8日(水)には、日本の伝統文化を音楽を通して学ぶことを目的に、「和太鼓教室」が行われました。指導くださったのは、今年も地元の天王太鼓「つくも会」の方々です。各クラスごと1時間の授業では、基本的な打ち方の練習からはじまり、バチさばきやリズムの取り方、力強い打ち方などを学び、しだいに皆コツをつかんでいきました。そして、南千住地域の大祭「天王祭」の御輿や囃子で鍛えられた音感と拍子の取り方はさすがのものがああります。はじめはちょっと遠慮がちだった音も表情も、授業が終わる頃には、笑顔にあふれ、「荒川音頭」に合わせて迫力あふれる太鼓の音が広い多目的教室いっぱいにはたくさん響き渡るようになりました。

つくも会の皆さん、今年もお世話になりました。

練習しているうちに、だんだんバチさばきが様になってきました



天王太鼓「つくも会」の皆さんから指導いただきました

JRCペットボトルキャップ集め

南千住二中は、JRC(Junior Red Cross = 青少年赤十字)に全校加盟しており、地域清掃やボランティア活動などに取り組んでいます。ペットボトルキャップ集めは、このJRC委員会の活動の一環で、JRCに加入した当初から5年間続けています。各ご家庭や地域の皆さんのご協力が集められたペットボトルキャップは半年に一度回収され、計量した後、リサイクル業者へ買い取っていただき、

その後「NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付され、途上国の子どもたちの支援活動に利用されます。1月に行われた回収では、その数は162.20kg、69,726個に上りました。これは、ポリオ(小児まひ)ワクチンおよそ81人分となり、貧困に苦しむ子どもたちの元へ届けられました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。



回収作業をしたJRCの皆さん

今回の回収で、CO2が10.9kgを削減！

1年生 街の先生教室

2月3日(金)の午後、1年生は7名の職業人をお招きしてお話を聞く「街の先生教室」を開きました。この日の講師は、**警察官の山口源成さん、荒川消防署の消防士の川本博紀さん、グラフィックデザイナーの野村宗弘さん、義肢装具士の野原友紀子さん、銀行員の伊藤早咲さん、栄養士の田村恭平さん、旅行代理店のツアーコンダクター高取和正さん**の7業種7人の皆さんです。全体会でご挨拶をした後、分科会に分かれ、この中から希望する2業種の方からお話を聞くことができました。義肢装具士さんは、実際にパラリンピックの選手の義足などを手がけていたり、水産会社の栄養士さんは、南千住二中の給食の食材を提供していただいたり、また、警察官の方は、多くの事件の捜査・解決に携わったりと、まさに社会の第一線で活躍されている方々ばかりで、お話を通して、仕事の意義・やりがい、そして働くことの苦労や楽しさも伝わってくるばかりで、驚きと感心の連続でした。また、デザイナーの野村さんは、希望者に放課後、実際にテーマを決めてデザインをアイデアからレイアウト、制作、彩色までを体験する補講を実施してくださいました。



ツアーコンダクター高取和正さん

終わりの会では、1学年を代表して、生徒会役員の〇〇〇〇さん(1-1)が、「今日のお話をこれからの進路選択に役立てていきます」という言葉とともに謝辞を述べました。お忙しい中、ご講話をいただきました講師の皆さま、ありがとうございました。



謝辞を述べる〇〇さん



栄養士の田村恭平さん



グラフィックデザイナーの野村宗弘さん



警察官の山口源成さん



銀行員の伊藤早咲さん



消防士の川本博紀さん



義肢装具士の野原友紀子さん

職業講話～通訳・桑川明香さん～

1月20日(金)5、6校時には、桑川明香(くめかわあすか)さんに来校していただき、30カ国にも及ぶ国に滞在しながら多くの仕事・経験を経て、通訳という現在の職につくまでを軽快な口調でユーモアを交えながらお話しいただきました。

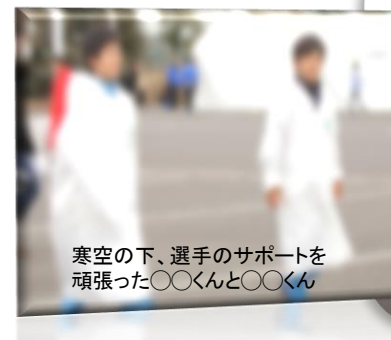


楽しい写真やイラストを使ってわかりやすく説明いただきました



「どれが本物の手でしょうか？」形はもちろん、色や質感までそっくりに作られた義手をつけてみました！

荒川区の順位は全50チーム中、女子19位、男子17位と昨年を大きく順位を上げる好成績。改めてここに、南千住二中の4選手、そして荒川区各中学校の選手たちの健闘に賞賛の拍手を送りたいと思います。



寒空の下、選手のサポートを頑張った〇〇くんと〇〇くん



全力で走る〇〇くん

東京駅伝 荒川チーム 女子19位、男子17位

記録証

男子の部	6区	〇〇〇〇くん	2km	6分53秒
	7区	〇〇〇〇くん	2km	7分01秒
女子の部	6区	〇〇〇〇さん	1.5km	5分41秒
	14区	〇〇〇〇さん	2.5km	10分20秒

3年生 全員合格を目指して

3年生は進路選択の最終段階を迎えています。2月2日(木)には、都立高校推薦入試の発表がありました。南千住二中からはこの推薦入試に15名が合格しました。また、先に行われた私立高校の推薦入試や一般入試、他県の私立高校の合格者を合わせると、すでに合計約39名が合格を勝ち取りました。

職員室や校長室には続々と「合格しました！」と笑顔いっぱい
に報告に訪れる生徒が続いています。しかし、入試はまだまだ序盤戦です。これから2月16日(木)には都立高専一次入試、24日(金)には、3年生のおよそ半数が受験予定の都立高校一次・分割前期入試が行われます。

3年生の教室では、放課後に受験勉強にひとり黙々と励む生徒や、先に合格した生徒がこれから受験をする生徒を励まし、そして受験勉強を手伝う姿が見られます。

「受験は団体戦！」合格が決まった人も、最後の1人の進路が決まるまで、全員で取り組む姿勢をもって臨んでいます。



放課後の教室で勉強に励む3年生

